

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第2号）について（送付）

本年の果樹カメムシ類越冬世代成虫の発生推移について取りまとめましたので、防除指導に利用していただくようお知らせします。

記

本年7月頃までの園地への果樹カメムシ類の飛来が次の理由により多くなることが予想されます。①越冬量が平年より多い。②予察灯等の誘殺数が多い。③餌となるスギ・ヒノキの球果の着生量は少ない予想である。

1. 発生状況：

- 1) 本年のチャバネアオカメムシの越冬成虫数（県内16地点の合計）は21頭（平年6.6頭、前年6頭）と平年より多く、過去10年と比較して2番目に多かった。また、捕獲地点数も、16地点中9地点であり（平年5.6地点、前年6地点）平年より多かった。（平成26年2月26日付け技術情報第16号）。
- 2) チャバネアオカメムシの5月第1半旬から6月第1半旬の予察灯の誘殺数は、天草市および宇城市でやや多、合志市で平年並であった。一方、フェロモントラップの誘殺数は、宇城市で平年比やや多、天草市で平年並、合志市で平年比やや少であった。（表1、図1）
- 3) ツヤアオカメムシの5月第1半旬から6月第1半旬の予察灯の誘殺数は、宇城市で平年比多、天草市で平年比やや多、合志市で平年並であった。一方、フェロモントラップの誘殺数は、宇城市および天草市で平年比多、合志市は平年並であった。（表1、図2）
- 4) 環境省における平成27年春におけるスギ・ヒノキ花粉の実測飛散量（速報値）によると、4月15日までの熊本地域のスギ・ヒノキの花粉の飛散量は911個/cm²で例年値（2777個/cm²）比べて少ないことから、本年度のスギ・ヒノキの球果の着生量は少ないと予想される。
- 5) 以上の結果より、本年の越冬世代成虫密度は地域により差がみられ、天草市では平年比やや多、宇城市松橋町平年比やや多、合志市平年並と推測される。また、本年度の球果の着生量は少ないと予想されることから、餌不足による園地への飛来が7月頃まで多くなると考えられる。

2. 防除対象作物：果樹（カンキツ類、ナシ、カキ、モモ等）

3. 防除上注意すべき事項

- 1) カメムシ類の発生時期や飛来量は地域、園地による差も大きく、同一園内でも局在するので、園内を観察し早期発見、早期防除に努める。

- 2) 気温の上昇に伴って活発に飛翔するようになる。カメムシ類は日没直後になると園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。なお、夜温が高く風が弱い日に飛来が多くなる。
- 3) 防除においては、薬剤の使用回数、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

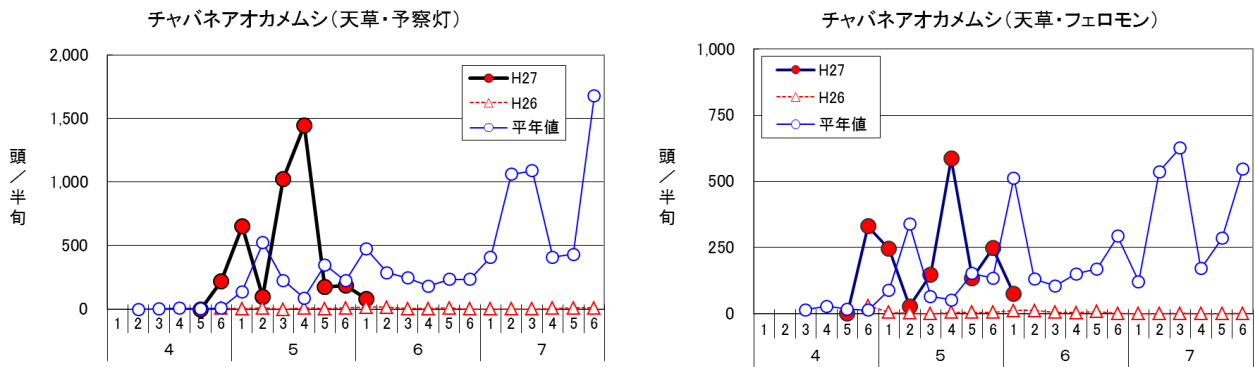


図1 天草市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：天草農研）

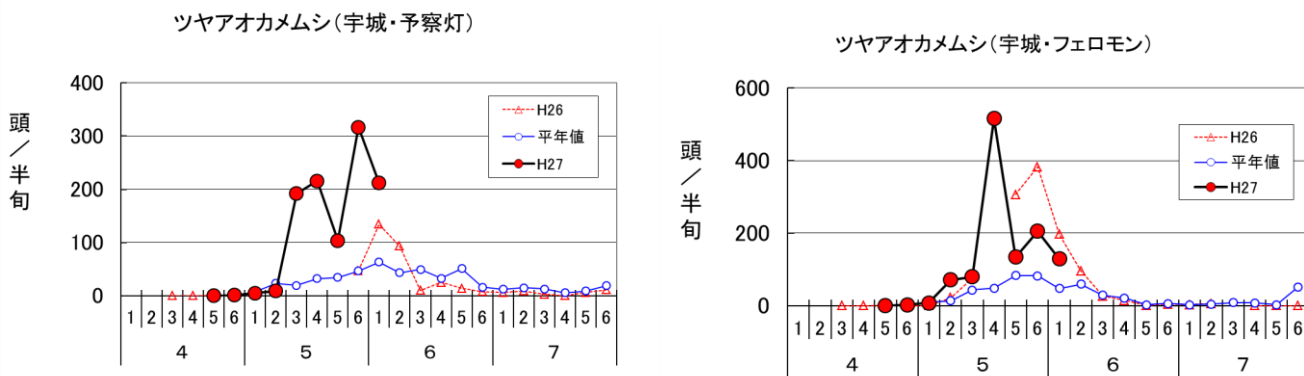


図2 宇城市（松橋）におけるツヤアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：果樹研究所）

表1 各地域のカメムシ類の誘殺状況（5月1半旬～6月1半旬）

地域名	チャバネアオカメムシ						ツヤアオカメムシ					
	予察灯			フェロモントラップ			予察灯			フェロモントラップ		
	本年	平年値	平年比	本年	平年値	平年比	本年	平年値	平年比	本年	平年値	平年比
合志市	111	(109)	1.0	75	(111)	0.7	112	(116)	1.0	7	(3)	2.3
宇城市（松橋）	229	(130)	1.8	567	(405)	1.4	1055	(227)	4.6	1142	(325)	3.5
天草市（本渡）	3661	(2022)	1.8	1465	(1342)	1.1	2521	(1599)	1.6	589	(182)	3.2

単位：頭（ ）内は平年値、 平年比：本年誘殺量/平年値

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）
 担当：荒木、加賀山 TEL：096-248-6490